

Executive Comment

総務省大臣官房技術総括審議官
松本正夫



京都大学大学院工学研究科修了
1976年郵政省入省。情報通信政策に一貫して携わる中、宇宙通信政策課長など宇宙通信政策に数多く従事。現職は宇宙通信をはじめ情報通信分野の研究開発や標準化等の技術政策全般を総括。

はじめに

昨年8月に総務省大臣官房技術総括審議官を拝命し、総務省の宇宙開発を総括することになりました。総務省では、宇宙通信政策課に合計5年、出向先の防衛庁でも衛星通信に携わり、合計で7年宇宙通信に携っております。宇宙に携わる者の一人として、フォーラム関係者の皆様の衛星通信への取り組みを、大変喜ばしいことと感じております。

宇宙開発利用の基本戦略

さて、2004年9月に、我が国の宇宙開発利用のあり方を考える上で中心的な役割を担う総合科学技術会議において、今後10年程度を見通した「我が国における宇宙開発利用の基本戦略」がとりまとめられました。この基本戦略では、宇宙開発利用について、国家戦略技術としての重要性を確認するとともに、国民の安全の確保、経済社会の発展と国民生活の質の向上等が目標として示されています。

安全の確保に向けた取り組み

最近では、2004年に発生した新潟県中越地震をはじめ、国内外で大規模災害の発生がみられる中、国民の安全の確保に向けた対応が求められております。そういった中、耐災害性、同報性、広域性等に優れる宇宙通信に一層期待が高まっており、総

務省としても、危機管理・災害情報システムの実現に向け、今後更なる取り組みを行っていきたいと考えております。

第3期科学技術基本計画の策定に向けた議論

また、現在、2010年までの5年間の科学技術政策の基本的な方向性を定める第3期科学技術基本計画の策定に向けた議論が進められております。宇宙通信の技術開発は、技術力向上に向けた取り組み自体が、広範な分野における技術の飛躍的進歩につながるものであり、宇宙関連技術へ果たす役割だけに留まらず、より広く論じられる必要があると考えております。

総務省の取り組み

昨年度のH-II Aロケット7号機の打上げ成功により、長いトンネルに入っていた衛星の打上げスケジュールが見えてきました。今後打上げ予定の、技術試験衛星Ⅷ型（ETS-Ⅷ）、超高速インターネット衛星（WINDS）の開発を着実に進め、活動を本格化させるため、総務省として積極的に活動していきます。

宇宙を取り巻く明るい話題

最近の宇宙開発利用の動向では、以下のような明るい話題が見られます。

- ・ 2005年10月に中国で有人宇宙船「神舟6号」が打上げられ、2003年10月に神舟5号が記録した飛行時間約21時間の5倍である約105時間半の飛行を行った。
- ・ 欧州においてガリレオ計画が進められており、20検証用ガリレオ衛星が打上げ成功。
- ・ 本年7月にスペースシャトル「ディスカバリー号」が打上げられ、野口宇宙飛行士が国際宇宙ステーションの組み立て・修理といった船外活動を合計3回実施。
- ・ 2003年5月に打上げられた「はやぶさ」が、本年11月に小惑星「イトカワ」へ世界で初めて着陸し、試料採取を行った。2007年には地球へ帰還予定。
- ・ 1997年11月に打上げられたTRMM（熱帯降雨観測衛星）が、本年8月に米国南部に大きな被害をもたらしたハリケーン「KATRINA」の降雨3Dデータの提供を行った。TRMMは、打上後8年以上経過しても正常に動作。
- ・ 2006年1月24日にH-II Aロケット8号機の打上げが成功し、地球観測衛星「だいち」の軌道への投入が成功。
- ・ 2006年2月18日にH-II Aロケット9号機の打上げが成功し、運輸多目的衛星新2号（MTSAT-2）の静止軌道への投入が成功。

A I A A への期待

BS・CSによって約20年前に始まった衛星通信サービスは、今や大きなビジネスに発展しております。今後、宇宙通信の更なる飛躍のためには、産学官それぞれの英知を結集することが不可欠と考えます。したがって、企業、大学や公的機関の方々に構成されているA I A A衛星通信フォーラムの今後の活動が、宇宙通信の発展の強力な旗振り役となることを期待しています。

以上